

## 会 議 録

□全部記録 ■要点記録

<b>1 会議名</b>	令和2年度 第3回 姫路市総合教育会議
<b>2 開催日時</b>	令和2年11月13日(金) 14時～15時
<b>3 開催場所</b>	姫路市防災センター 5階 災害対策本部会議室
<b>4 出席者又は欠席者名</b>	<p>〔構成員〕</p> <p>清元市長、松田教育長、松本教育長職務代理者、田寺教育委員、吉田教育委員、山下教育委員、森下教育委員</p> <p>〔関係者〕</p> <p>黒川副市長、高馬副市長、和田市長公室長、岡本教育次長</p> <p>〔事務局〕</p> <p>企画政策推進室 : 田邊室長、池田主幹、松浦係長、溝口主任</p> <p>教育委員会事務局 : 平田教育総務部長、原田学校教育部長、殿垣総務課長、井上学校指導課長</p> <p>藤原健康教育課長、春名健康教育課主幹、村山教育研修課長</p> <p>上田城内図書館係長、難波城内図書館係長、簗島総務課課長補佐</p>
<b>5 傍聴の可否及び傍聴人数</b>	傍聴人 2名
<b>6 議題又は案件及び結論等</b>	令和3年度予算編成における教育関係の重点事項
<b>7 会議の全部内容又は進行記録</b>	詳細については別紙参照

- ・ 災害時の休校の際にも I C Tを活用した授業を行う体制として、タブレットを持ち帰ることのできる体制を整えるべきではないか。

⇒ (事務局) 令和3年度からは、持ち帰り可能とする方向で考えている。
- ・ 本市では、前倒しにより、令和3年2月に1人1台のタブレット配備が完了する。

国において、デジタル教科書導入の動きがあるなか、姫路市では、いつでも導入できる準備が整うことになる。

特に、副読本については、児童・生徒の興味や個性を伸ばせるよう、デジタル教材を活用できないか。
- ・ 2週間又は1カ月に1度、オンライン教育の日を設けてはどうか。

平時にこそオンライン教育を行い、オンライン上で教師と児童・生徒のキャッチボールを重ねることで、災害時等に活用できるのではないか。
- ・ オンライン教育が得意な教師と、不得手な教師がいるため、得意な教師の授業を一斉配信し、担当がサポートに回るという方法も考えられる。

これにより、不得手な教師もオンライン教育を学ぶことができ、教師の能力の底上げが期待できる。
- ・ 不登校の児童・生徒が学力のないまま卒業することのないよう、不登校の児童・生徒向けのオンライン教育（双方向でなくても構わない）を考えるべきではないか。
- ・ 将来的には、得意分野がある児童・生徒がその分野を伸ばしていくことができるよう、タブレットを用いて、個人単位で先に進める学習方法を検討してもらいたい。
- ・ スクールソーシャルワーカーの増員により、様々な視点から、学校、家庭・地域を見守ってもらいたい。
- ・ 定年退職をされた地域の方に、学校と地域の間で活躍していただきたいが、何をしたらよいか分からないとの意見もある。

公民館等で、スクールソーシャルワーカーの補助員を育成する講座を行っても良いのではないか。
- ・ オンラインを用いた研究会では、「手を上げるボタン」を付けるなどの工夫をしているものもある。活発な授業にするためには、双方向のやり取りができる機能が必要である。
- ・ オンライン教育では、授業についていけない児童・生徒や、家庭環境により受講が難しい児童・生徒がいるだろう。これらの児童・生徒への対応が必要である。
- ・ ウォータークーラーは、生徒数に応じた台数を設置してもらいたい。
- ・ 置塩城跡再現CGコンテンツには、古地図を重ね合わせるコンテンツなどを組み合わせても面白いのではないか。

姫路城周辺でも、古地図を重ね合わせるなどにより、学習の深掘りや、まち歩きに関する興味の醸成が期待できる。